

本市で開催された競技は2種目

女子バレーボール



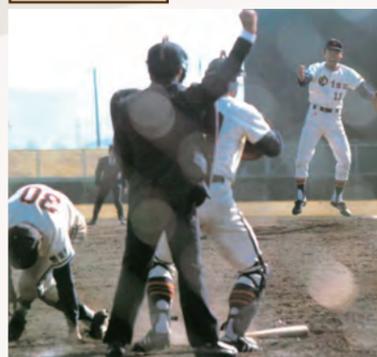
大会結果

- 1位 栃木県 (宇都宮女子商業高校)
- 2位 大阪府 (大阪選抜)
- 3位 滋賀県 (八幡商業高校)
東京都 (全東京)

10月14日～17日の4日間、バレーボール(少年少女の部)が開催。全国から各1チーム、計47チームが参加し、運動公園体育館、市民体育館、八幡商業高校体育館で競い合いました。県代表として八幡商業高校が出場し、準決勝で大阪に敗れたものの、3位入賞となりました。



軟式野球



大会結果

- 1位 滋賀県 (大津市役所)
- 2位 長野県 (株チノン)
- 3位 東京都 (株ライト工業)

10月14日～17日の4日間、軟式野球(成年の部)が開催。全国の予選を勝ち抜いてきた28チームが出場し、運動公園野球場、八幡商業高校第2グラウンドを会場に、熱戦が繰り広げられました。県代表として大津市役所が出場し、見事優勝を飾りました。



県で男女・女子総合優勝を達成

滋賀県は、男女総合成績(天皇杯)、女子総合成績(皇后杯)ともに1位になりました。天皇杯は当時の国体史上最高得点をマーク。皇后杯は苦戦が予想されましたが、悲願の優勝を果たしました。



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025

開催日 国スポ 2025年9月28日(日)～10月8日(水) 11日間
障スポ 2025年10月25日(土)～27日(月) 3日間

市内で開催される種目

正式競技: バレーボール、バレーボール(身体障がい)、ハンドボール、軟式野球、トライアスロン
デモンストラレーションスポーツ: ウォーキング 公開競技: 綱引き



800日前イベントを開催しました

アクア21のセンターコートで、7月22日に「800日前イベント」を開催しました。イベントでは市内出身の乾さんと湖南市出身の北斗さんのコンビ「ノーサイン」(吉本興業、滋賀県住みます芸人)が漫才を披露したほか、ZTVリポーターとしても活躍中のタレント西上真帆さんとのフリートークがあり、会場は大きな笑いに包まれました。

また、各競技の体験型イベントとして、「ハンドボール」のシュート体験、「軟式野球」のストラックアウト、全日本綱引選手権優勝チーム・BIWAKO同志会との綱引き対決が行われ、体験後にはトートバッグやボールペンなどの国スポ・障スポ関連グッズがプレゼントされました。

44年の時を経て、近江の地で再び開催

問 国スポ・障スポ推進課 TEL(33)6600・FAX(33)3124・HP 15046



1981年10月13日～18日の6日間、第36回国民体育大会「びわこ国体」が開催。そして、44年ぶりに、国スポ・障スポ(旧国体)が滋賀県を舞台に開催されます。今回は、写真を通して前回大会を振り返ります。



びわこ国体シンボルマーク

全体の形はびわ湖を象徴化し、水平な白線の広がりには波を表すとともに、「国体が国民のものとして、ますます発展するように」との願いから作られました。



6,500人でつないだ「4つの火」

伊吹山で採火された「伊吹の火」、油日神社で火切り式を行い採火された「油日の火」、延暦寺の不滅の法灯からの「比叡の火」、湖上・竹生島からの「竹生の火」の4つの火を県民がつなぎ、滋賀県庁前で集火され、「滋賀の火」と名付けられました。



29,000人の観客が詰めかけた開会式

「水と緑にあふれる若さ」をスローガンに、びわこ国体が開催。開会式場の津市・皇子山総合運動公園陸上競技場では、各都道府県選手団19,500人による堂々の入場行進が行われました。約70会場、33競技は当時の国体史上最大の規模で、県内には選手団と県民との交歓風景が広がりました。

